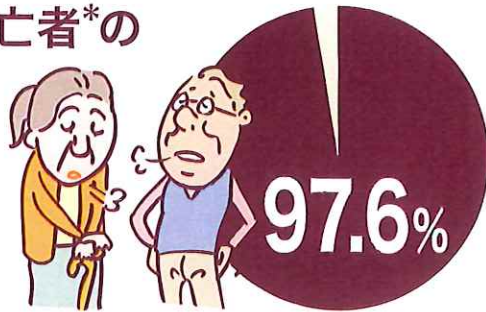


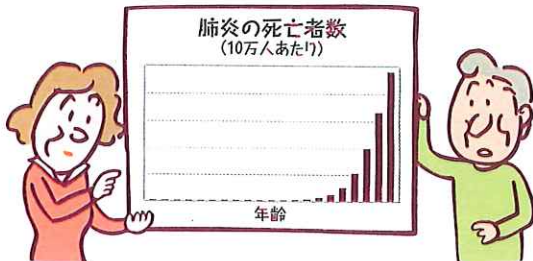
なぜ肺炎予防が大切なのでしょう？

肺炎による死亡者*の
97.6%が
65歳以上¹⁾

*新型コロナウイルス感染症
による死亡者は含まれません



肺炎は年齢が上がるごとに
死亡の
リスクが
高まる²⁾



肺炎は発症後に
急激に
症状が進む
こともある³⁾



1) 厚生労働省、人口動態統計(確定数)2020年

2) 日本呼吸器学会、成人肺炎診療ガイドライン2017 p3

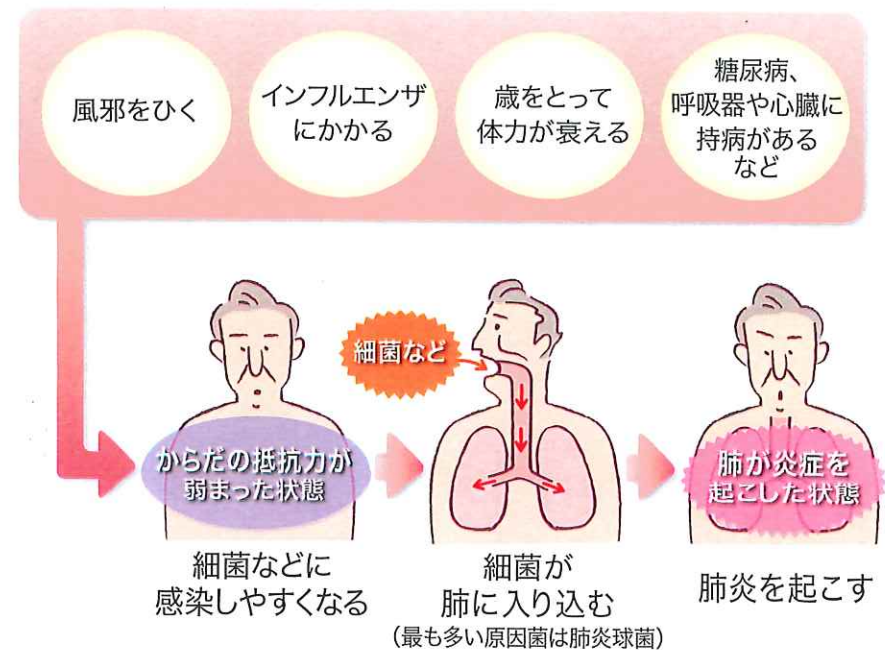
3) 厚生労働科学研究費補助金、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業、重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対するサーベイランスの構築と病因解析、その診断・治療に関する研究(H22-新興-一般-013)報告書

どうして肺炎になるのでしょうか？

日常でかかる肺炎は、
主に細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる
肺の炎症です。肺炎の原因となる細菌の多くは、
人のからだや日常生活の中に存在しています。
高齢だったり病気があったりして、
抵抗力(免疫力)が弱まった時などに
感染を起こしやすくなります。

●肺炎を起こすしくみ

からだの抵抗力(免疫力)が弱まる



肺炎は、どのように予防すればよいのでしょうか？

肺炎を予防するには、
細菌やウイルスがからだに入り込まないようにすること、
からだの抵抗力を強めること、
そしてワクチン接種が大切です。

細菌やウイルスが からだに入り込まないようにするには・・・

マスク、手洗い、うがいをする。



歯磨きなどで口の中を
清潔にする。



誤嚥を防ぐ。



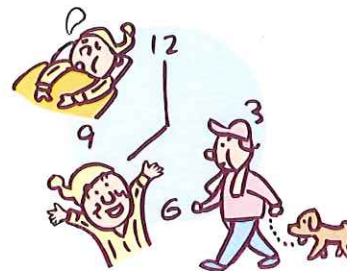
誤嚥：飲み込むことがうまくいかなくなり、
飲食物や唾液が食道ではなく気管
に入ってしまうこと

からだの抵抗力を強めるためには・・・

禁煙をする。



規則正しい生活をする。



もともと
持っている
病気を
治療する。



ワクチン接種とは・・・

肺炎球菌ワクチン

インフルエンザワクチン

肺炎球菌ワクチンと
インフルエンザワクチンを
接種する。

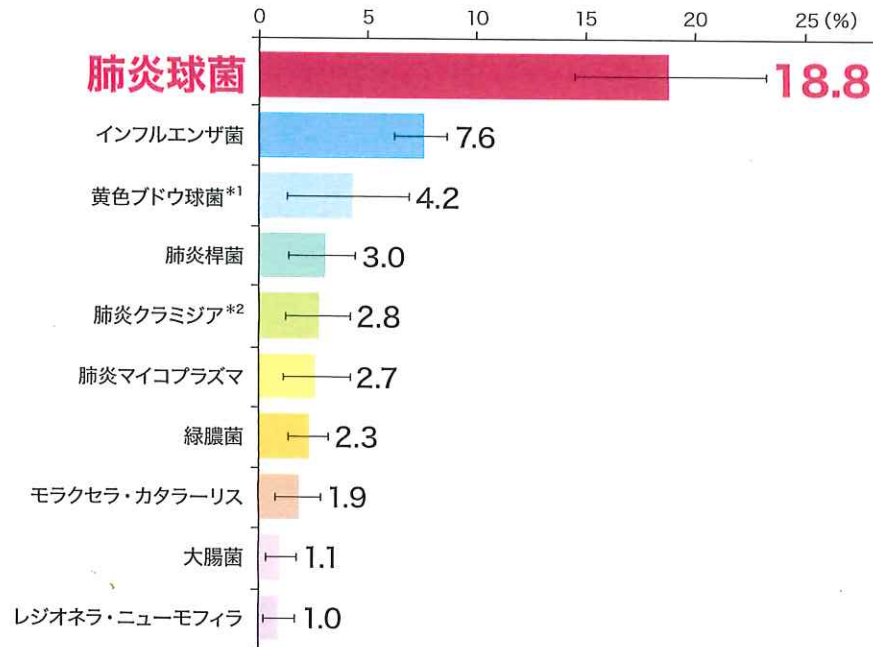


これらのワクチン接種で、
すべての肺炎を予防できるものではありません。

なぜ、ワクチン接種が大切なのでしょうか？

日常でかかる肺炎で一番多い原因菌は、肺炎球菌です¹⁾。

● 国内9研究(市中肺炎3,077症例)、上位10病原微生物(メタアナリシスにより95%信頼区間を追加)



*1: MSSA, MRSAを区別している201株のメタアナリシスではMRSAは28.4%(95%CI 13.2-43.6)であった。

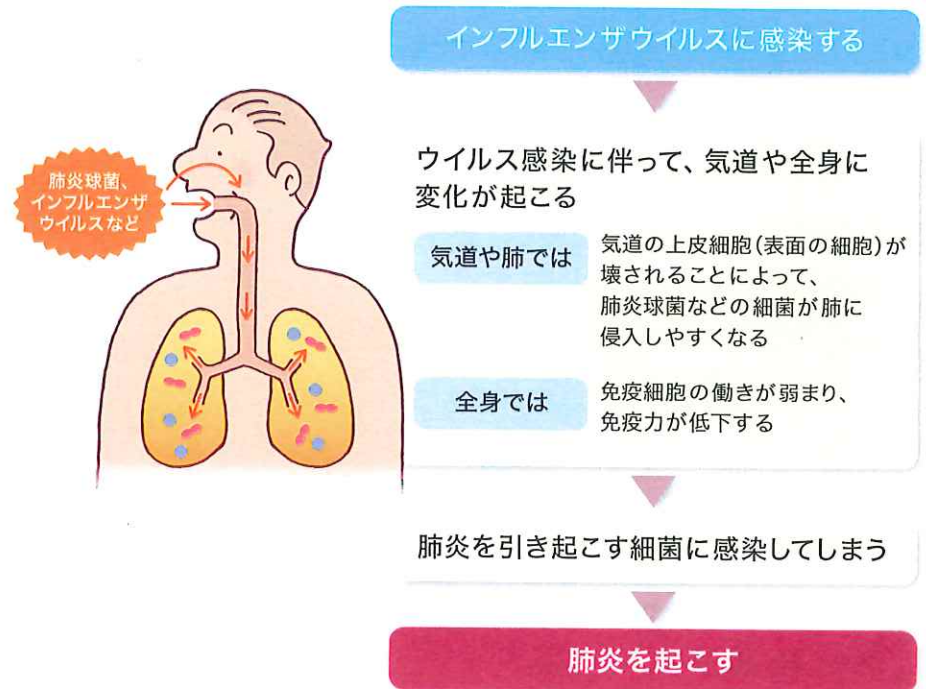
*2: Micro-IF法による診断率(2論文)28/922=3.0%, ELISA法による診断率(5論文)71/2,022=3.5%

1) 日本呼吸器学会, 成人肺炎診療ガイドライン, 2017:10.

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐためのワクチンです。

インフルエンザも、肺炎を起こすきっかけになることがあります。

● インフルエンザが細菌感染による肺炎を引き起こすしくみ



インフルエンザをきっかけに感染に対する抵抗力が弱まり、そこに細菌感染を起こすことで、肺炎にかかることがあります。そこで、インフルエンザワクチンでインフルエンザを予防することも、肺炎予防につながります。

成人用肺炎球菌ワクチン(23価肺炎球菌ワクチン)の接種について

接種当日は下記にご注意ください。

- 注射部位は、清潔に。

- 接種後は、安静に。

接種後30分ほどは安静にしておいてください。
また、接種当日は激しい運動を避けてください。

- 注射部位はこすらない。

接種当日は入浴されてもかまいませんが、注射部位をこすらないでください。



接種後に下記のような症状があらわれることがあります。

- 接種部位の赤み、腫れ、熱、痛み。

一般的に、上記のような症状は3~4日で治まります。

- 接種部位を中心に上腕全体、あるいは腕全体にまで及ぶ赤み、腫れ、熱、痛みなどの症状。

接種から2~3日後をピークにみられることがあります。

その他、熱っぽい、だるいなど体調の変化があった場合には、医師にご相談ください。

再接種について

- 再接種を希望される場合には、その必要性を医師と相談のうえ、十分な間隔を空けて接種を受けてください。
- 毎年接種するインフルエンザワクチンとは異なり、前回から5年以上の間隔をあけて接種する必要があります。
- 5年以内に再接種を行うと、注射部位の痛みや腫れが強くなる場合があります^{1,2)}。
- 接種した記録は必ずとっておき、再接種の際には医師に接種歴があることを伝えてください(接種歴がわかるカードや手帳等を持参してください)。



1) Borgono JM, et al. *Proc Soc Exp Biol Med.* 1978; 157: 148-54.

2) Musher DM, et al. *J Infect Dis.* 2010; 201: 516-24.

肺炎球菌ワクチンは、すべての肺炎を 予防するワクチンではありません。

定期接種とは、予防接種法に基づき市町村が実施する予防接種(ワクチン接種)です。経過措置として、定期接種の対象者や対象期間が以下のように定められています。

する予防接種(ワクチン接種)です。経過措置として、定期接種の対象者や

対象者

- 1 今までこのワクチン*を接種したことがない方
*23価肺炎球菌ワクチン



- 2 対象の年度に以下の年齢になる方

該当する年の4月2日から翌年の4月1日までに、下表の年齢の誕生日を迎える方

65歳	70歳	75歳	80歳
85歳	90歳	95歳	100歳

- 3 60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方(インフルエンザワクチンの定期接種対象者と同じ)も対象

対象期間



- 1 該当する年の4月1日から翌年の3月31日まで

- 令和元年度～令和5年度の5年間に1人1回、定期接種の機会を設けています。
- 定期接種としての公費助成が受けられるのは、この5年間のうち、ご自身が対象となる年度の1年間に限られます。
- 公費助成の有無やその内容は、お住まいの市町村によって異なる場合があります。

※定期接種をご希望の方は、令和5年度までにいつ対象年度になるかをお住まいの市町村にご確認ください。

再接種を含め、定期接種の対象者でない場合は、任意接種※で接種することができます。

※任意接種とは、患者さんの判断で受ける予防接種です。基本的に費用は自己負担ですが、市町村によっては助成を行っている場合があります。